

特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会 Health Assistance and Neighborhood Development Support(略称 HANDS)

活動案内 2017 年度版



「ビラーン B'laan」は、フィリピン南部のミンダナオ島にすむ 18 のアニミズム系先住民族の一つです。現在、本会は、ビラーン民族だけでなく、「ティボリ T'boli」「モノボ Monobo」、さらに、13 民族に分かれるムスリム系先住民族のうちの「サンギル Sangil」「マギンダナオ Magindanao」の村でも、医療や教育支援の活動をしています

ミンダナオってどんなところ？

フィリピン共和国には、先住民族（Indigenous peoples）として1987年憲法に初めてその権利が明記された人々が総人口の17%、約1300万人（1996年※）暮らしています。特に、スペイン支配が及ばなかったミンダナオ島には固有の文化を今に至るまで継承している民族（イスラム系のモロ"Moro" 13民族、非イスラム系のルマド"Lumad" 18民族）が住んでいます。

ミンダナオ島のビラーン民族は、移動しながら狩猟採集を行い、「ルマド」と呼ばれてきました。しかし、アメリカ植民地時代に始まったフィリピン中部ビザヤ地方からミンダナオ島への入植政策や、1960年代以降の鉱山・農林業の大開発により、先祖伝来の土地と森を奪われてきました。

レイクセブ町（人口約9万人、2015年国勢調査）の半数を占めているティボリ民族も、ビラーンの人々と同じように、20世紀以降の入植政策や農業開発により農耕適地を奪われ、山岳部でも伐採業者や鉱業資本の進出で森が消滅して生活基盤を失いました。伝統文化の継承はもちろん、生存さえ厳しい状況におかれました。

一方でティボリ民族の地域には、先祖伝来の土地の奪回、環境の修復、そのための教育普及に対する支援が1960年代から入ったため、この地域の初等教育普及率は推定45%と、他の先住民族地域に比べると高く、アバカ繊維の草木染・手織りの織物ティナラクをはじめとする伝統文化も比較的よく継承されています。

しかし民族を問わず、文化的少数派である先住民族にとって、公教育は画一的カリキュラムであり、ドロップアウトする子どもも多くいます。さらに、いまだに続く入植者による土地収奪、農業資本によるモノカルチャーの拡大、都市部における民族差別、そして近年では、複数の国の企業投資による大規模な鉱物資源開発に脅かされています。ほとんどの先住民族家庭は、政府が定める貧困ライン以下（家族5人の世帯で1日あたり400円以下の収入）の生活にとどまっているのが現状です。

※フィリピン政府の先住民族国家委員会（NCIP）の前身である、北部文化的少数民族室（ONCC）および文化的少数民族室（OSCC）による調査。フィリピン各地に住む先住民族の詳細はわかりにくく、調査も行き届いていません。それが、先住民族のコミュニティが必要としている教育、医療などの基本的な公共サービスが届いていない理由の一つです。今後の国政調査では、先住民族人口についても国連開発計画の協力で含まれていく予定です。

HANDS の活動地域

フィリピン共和国



ミンダナオ島拡大地図



HANDS の現地協力組織

- CMIP: Catholic Mission to the Indigenous People (先住民族の伝統文化継承と教育を支援するカトリック・グループ)
- PFP: Partners for First Peoples Foundation (ティボリ、マノボ等山岳部先住民族の森林農業支援グループ)
- PIHS: Pasantambao Integrated Health Service (ムスリムの村の医療、保健推進グループ)
- COWHED: Cooperative of Women in Health and Development (ティボリ民族女性の組合)
- SCMSI: Santa Cruz Mission School Inc. (ティボリ民族文化継承を理念とする学校法人)
- NTP: Nabal Tabih Production (ビラーン民族の伝統織ナバルタビ振興グループ)

HANDS のミッション

民族のアイデンティティ保持と先祖伝来の土地での経済的自立を求めるビラーン、ティボリ、マノボなどミンダナオの先住民族を、医療、教育、消滅した森の修復（植林及びアグロフォレストリー）、そして女性の自立支援事業を通じて支援しています。日本国内においては広報活動、セミナー開催などを行い、多民族・多文化共生社会実現に寄与することを目指しています。

会の設立と沿革

1996年7月、フィリピン・ミンダナオ島南部先住民族のひとつであるビラーン民族のコミュニティに、小さな医療センターを建設し、その運営を資金面で支えることから活動を始めました。2000年10月、神奈川県での認証を受けて法人化しました。

有用材を伐り尽くして伐採業者が去り、森が消えた山岳部で、生き延びる道を模索しているビラーン族、ティボリ族、カラガン族などの先祖伝来の土地は、広大なパイナップルプランテーションや入植者のコーン畑になっている平野部にありました。

山腹の緩斜面を耕し、コーンや根菜類栽培を生業とする30余りのコミュニティ住民約1万人が、私たちの活動の主な対象です。民族の言葉、踊り、伝統工芸などの豊かな文化を受け継いで、経済的、社会的に自立したコミュニティづくりを目指す人々を、4つの現地協力組織（CMIP、PFP、PIHS、COWHED）とともに支えています。

2013年6月より「チボリ国際里親の会（JOFPA）」の活動を引き継ぎ、ティボリやウボ民族などの先住民の教育を現地の学校法人サンタクル・スミション・スクール(SCMSI)と協力して支援しています。

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

（英文名称）Health Assistance and Neighborhood Development Support

理事長：山崎 登美子

会員：社員会員 48名 賛助会員 252名（2017年4月現在）

役員：理事5名、監事2名 計7名

事務局ボランティア：約5名

イベントボランティア：約10名

（住所等の連絡先は、最終ページをご覧ください。）

無医村での巡回診療、常備薬の設置、重症患者の支援、薬草栽培奨励、助産師・ヘルスワーカー養成とともに、予防目的の簡易水道建設、地域限定医療保険の普及推進を通じて、健康な村づくりを応援しています。



2016 年度報告

CMIP と協働 20 年目の 2016 年度は、巡回診療、衛生・栄養改善等の包括的医療支援は、17 年勤続の助産師ジョジョさんの退職を機に終了し、育成されたアトモロック母親クラブの栄養・衛生改善活動と、奨学生 60 名の入院等医療支援に限定しました。

一方、ムスリム医療チーム PIHS との母子医療・保健を中心とする協働は、4 地区のヘルス組合自主財源事業モニターとともに、ムスリム女性の安全な出産・育児のニーズに応える助産所開設に向けて、会員の協力要請、助成金申請等資金面での準備と、PIHS による現地関係機関との調整活動を支援しました。

2017 年度計画

主にビラーンやティボリ民族の村を対象とする CMIP との協働事業は、2 年前の助産師退職以降、医療保健分野の活動方針提示や支援要請がないため、2017 年度は、奨学生の健康面のニーズに応える支援に限定し、アトモロック母親クラブの栄養・衛生改善活動も、以下の PIHS との事業に注力のため暫定的に中止します。

PIHS とは、ジェネラルサントス市バランガイ・ファティマにおける助産所の建設、及び、開所後 6 か月間の運営支援など母子保健推進事業で協働します。建設及び運営が軌道にのるまでの事業資金は、前年度末に決定の今井記念海外協力基金助成金（40%）と自己資金（60%）で賄います。

初等教育普及と人材育成



すべての子どもが初等教育を終了できるように、給食支援や児童への奨学金支給にまた、教師、助産師、農業専門家など、将来のコミュニティーを担う人材育成のため、困窮度の高い世帯のハイスクール、カレッジ生に奨学金を支給しています。

2016 年度報告

SCMSI と協働の事業では、SCMSI 校運営費補助や里子 80 名の授業料等の継続支援を実施しました。一方で、前年度は会員の寄付を充当して、3 教室整備を支援した新教育制度 Kto12 による教室不足問題には、新たな協力の申し出はなく、追加要請には対応できませんでした。

CMIP とは、給食実施による初等教育支援他、小学生からカレッジ生まで計 60 名に奨学金を支給し、貧困家庭の子どもたちの学業継続を支援しました。ハイスクール以下の奨学生が在籍する公立校は山間部に散在し、監督・モニターが大変ですが、CMIP 担当者の尽力で、年度末段階で中退事例は皆無でした。

2016 年度は 11 名の会員で支援した住民組合運営ブラクール小は、3 km の距離に公立小学校ができてからも在籍数減少などの変化はなく、当団体支援による住民組織運営ブラクール校存続のニーズは続いています。

2017 年度計画

CMIP とは辺境地域の初等教育普及と奨学金支援で協働し、民族の伝統継承を建学の精神とし、地域に役立つ人材を育成する SCMSI に対しては、教師給与補助など運営面で支えるとともに、特定の里子支援を行います。以下その詳細です。

- ① 初等及び中等教育支援
 - a 山岳部貧困家庭の児童・生徒 48 名の奨学金支援と、4 小学校約 400 名、週 3 回の給食費補助 (CMIP と協働)
 - b ブラクール小学校(約 80 名)の教師給与補助、給食支援 (PFP と協働)
 - c 主にティボリ民族が学ぶ SCMSI 校運営支援と、里子の教育費補助 (SCMSI と協働)
- ② 高等教育支援：カレッジ対象奨学金事業
 - a 医大生 2 名を含む 11 名 (CMIP と協働)
 - b 外部カレッジ生 12 名 (SCMSI と協働)
 - c 2 名 (PFP あしなが奨学金)
 - d JOFPA 基金看護師コース 2 名 (PIHS/SCMSI)

熱帯の生態系を守るため、破壊された森の修復と、最貧層に属する山岳部先住民族の持続可能な収入向上の両者を実現するため、傾斜地農法によるアグロフォレストリー（森林農業）事業を実施しています。



苗木やスコップなどの資材の支援に加えて、苗木育成を村ぐるみで見守る住民組織の育成、熱帯林修復の意義、傾斜地農法によるココヤシ、バナナや間作であるコーンや根菜類の栽培法など、理念、技術研修を実施しています。

2016 年度報告

山岳部先住民族の村の農村開発事業の多くは、熱帯林修復の活動を含むため、以下、農村開発と環境保全両分野の事業として報告します。

ビラーンの村ボルールでは、農業専攻の青年が主導して実施した2年前のアグロフォレストリーモデル事業の継続として、2016年度も、バナナ、ココヤシ、ゴムを植え、技術研修を実施しました。（WE21 ジャパンみどりの助成・PFP と協働）

ダグマ山系南端に位置するレイクセブ町でも、ラムダラグ村の3年目事業が終了、タシマン村では2年目が終了し、10月から3年目に入りました。タクネル村ではエルアリスでの事業が終了、2016年度のレイクセブ町における事業では7件 225haで、ココヤシ、コーヒー、果樹などの苗木の植栽が完了しました。（各事業、緑の募金、三井物産環境基金、イオン財団環境金の助成を受けて、PFP と協働しました。）

2017 年度計画

持続可能な森林農業（アグロフォレストリー）を推進する上で欠かせないのが、整地、苗木植栽、手入れなどの山深い地域での作業の定期的なモニター活動です。一方で、山岳部の治安状況は、前年度7月に就任した新大統領の強権的汚職や薬物対策、および、イスラム過激派対応により、一時的であれ、治安はむしろ悪化しています。

治安問題がネックとなり、事業モニター要員確保が一層困難になると思われ、新規実施は、ボルールでの1件に限定しました。（緑の募金交付金申請中。PFP と協働）
なお、継続事業であるレイクセブ町タシマン村レムズアルは9月末に完了予定で、10月以降は、ボルールでの新規事業と、過去の植栽地域のモニターに注力の予定です。（いずれも PFP と協働）

女性自立支援



2002年のレイクセブ町ティボリ民族の組合 COWHED に対するティナラク織と縫製技術研修、2006年のビラーンの村アムグオにおける伝統織ナバルタビ「織の家」建設支援など、先住民族の希少な伝統文化継承の活動を支えてきました。

また、これらの伝統織物やその縫製品であるバッグ、小物、さらに、民族衣装に多用されるビーズ製品や真鍮細工を、日本の各種イベント会場で紹介し、販売することで、ティボリやビラーン民族女性の収入向上を支援しています。

2016 年度報告

当団体の支援の成果として、2015年度半ばには、90%の自立達成と自己評価した COWHED の活動は、2016年度も地域の物産展他で高い評価を受けるなど順調に活動しています。また、サウスコタバト州の夏の都ともいわれるレイクセブの中心部にあり、観光客が増える夏季には店舗の売り上げも伸びました。DTI（貿易通産省）や町の観光局など行政からも評価されて、その支援で縫製研修が実施されました。当団体への依存度も確実に減りましたが、日本でのティナラク製品愛好者に応えるため、28年度も約8万円分の製品を仕入れてイベントで販売しました。

一方、ナバルタ織継承グループ NTP を通じての活動は、織手2名の織を年間6万円分購入したほか、年度半ばに、織手の1人が急逝したため、計画にはなかった織手の育成と活動拠点「織の家」の補修を、年度後半から開始しました。

2017 年度計画

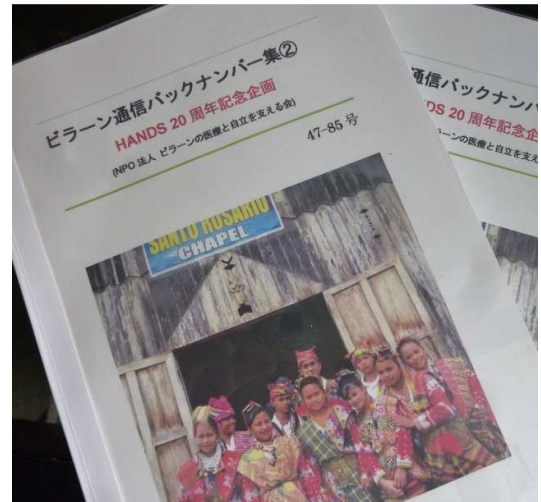
自立度を高めた COWHED に対しては、組合員の子どもを対象とするカレッジ奨学生1名の支援は残る卒業までの1年間継続するとともに、当団体の製品注文に対応し、4半期ごとの現況報告を担当するスタッフ1名の手当も継続支援します。

NTP に対しては、前年度に一部支援を始めた「織の家」の補修、自主財源にもなるカボチャやアバカなどの苗木支援、織手2名に対する研修などからなる小規模プロジェクトを助成金を受けて実施します。

織手の収入向上のため引き続き織を購入するとともに、織の技術を持たない女性たちも、伝統技能を生かしたハンディクラフト事業の受益者になれるように、ミシンの購入、小物作りなどの縫製研修もプロジェクトに含めます。

季刊のニュースレター「ビラーン通信」の発行、ホームページによる広報啓発の活動に加えて、ティボリ民族のティナラク織製品、ビーズ、真鍮細工、ビラーンのナバルタビ織の反物などを、主に、神奈川県内や都内のフェスタやバザーで、紹介・販売し、ミンダナオの特に先住民族の現況を市民に広報しています。

年4回の団体主催の活動報告会、及び、2月に開催のよこはま国際フォーラムにおいて、5分野の海外支援活動に順次焦点を当てて、広く市民に広報しています。



2016 年度報告

会発足 20 年目を迎えて、6 月下旬、ミンダナオ出身歌手アリソンさんのミニコンサートを開くとともに、季刊ニュースレターのバックナンバー集を作成しました。

ニュースレターは、85 号—88 号を各 300—400 部発行し、その発行日に合わせて開催の活動報告会は、参加者数は少なかったものの、会員の情報共有の場として活用できました。

ホームページは、ニュースレター公開と、イベント情報を中心とするお知らせ欄を定期更新しました。個人情報保護の方針、サイトポリシーの掲載は次年度の課題となりました。

大小 10 数回参加したイベントでは、先住民族女性の手仕事紹介と製品販売（約 40 万円）により伝統文化継承と女性の収入向上を支えました。

事務局は専従 1、非専従 3 がかわりましたが、勤務体制は不規則で少なく、懸案の認定 NPO 法人化申請作業などは持ち越しとなりました。

2017 年度計画

ニュースレター「ビラーン通信」は、従来通り季刊とし、89-92 号を発行します。ホームページでの公開も 3 年目を迎えて定着してきたので、印刷部数は各号 300 とし、ページ数は原則 6 ページのまま、必要に応じて 8 ページに増やします。ニュースレター発行時の活動報告会は、青葉区以外での開催も視野に入れて、広報啓発の機会、対象を増やします。

ホームページは、個人情報取り扱い方針、貸借対照表の公告などを加えるとともに、定期更新に努めて、必要な情報にアクセスしやすいページ作りを心がけます。

イベント参加は、COWHED 製品の販売促進のニーズは減ったため、ナバルタビ製品を中心に、ミンダナオ先住民族の現況の広報目的で、12 回程度の参加を予定しています。

事務局は、原則専従 1 非専従 2 の体制で運営し、ニュースレターやイベント準備などについては、第 1, 3 金曜日のボランティア作業日を充当します。

I 経常収益の部

科目	28年度予算	決算	差異	摘要
経 受取会費(社員会費)	306,000	266,000	40,000	500円 x 519月/人(43.25人x12か月)
常 寄附・医療自立支援	600,000	703,000	▲103,000	1,000円 x 12月 x 58口
寄附・教育支援	5,300,000	5,579,100	▲279,100	チホリ2,784,500,カレッジ686,000,小・ハイス쿨奨学金980,600,フナケル・あしなが356,000,医大生70万
寄附・一般	2,200,000	2,205,197	▲5,197	助産所寄付43万、SEIKO 基金50万、クリスマス寄付9万、他一般寄付(古切手、不用品換金分含む)
収 (受取寄附合計)	8,100,000	8,487,297	▲387,297	
益 受取助成金	3,122,000	3,122,000	0	イオン財団120万 三井106.4万、緑の募金清算金64.7万、WE21みどり21.1万
事業収益	250,000	122,566	127,434	ハンディクラフト事業収益
雑収入	1,000	22	978	銀行受け取り利息
経常収益計	11,779,000	11,997,885	▲218,885	

II 経常費用の部

科目	予算	決算	差異	摘要
事 医療・衛生事業費	440,000	428,653	11,347	CMIP: 169,741円(ヘルス報告スタッフ手当、奨学生医療費)、PIHS:258,912円
業 人材育成事業費	6,200,000	6,410,183	▲210,183	SCMSI(定期248万加ッ7万)、CMIP(奨学金・国家試験153万給食25万) ブラケル(定期、あしなが、給食計40万) 医大生アン74万、JOFPA奨学金 27万 モナリサ追加支援(安達資金)7万 他
費 農村開発事業費	350,000	360,868	▲10,868	WE21みどり支援(助成211,000円) ボルールの小規模アグロフォレストリー
環境保全事業費	2,850,000	2,855,898	▲5,898	タマ村(三井物産101.2万、イオン財団エルアリス143.2万、緑の募金3年目41.2万)
女性自立事業費	64,000	130,314	▲66,314	COWHEDスタッフ手当と奨学金4.6万円、NTPナハル死 織手支援他8.4万円
広報啓発事業費	150,000	168,904	▲18,904	3イベント(グローバルフェスタ、あーすフェスタ、横浜フェスタ)参加費、ホームページ担当謝礼ほか、
予備事業費	100,000	0	100,000	
事業費計	10,154,000	10,354,820	▲200,820	
管 人件費	1,440,000	695,500	744,500	専従スタッフ(1,000円 x 60時間x5月、30時間x7月)非専従スタッフ20万円
理 通信費	220,000	257,118	▲37,118	NTT 12万、会報発送費他郵送料 8万円 その他(寄付による未使用切手分)
旅費・交通費	130,000	61,995	68,005	非専従スタッフ2名交通費、現地モニター交通費他
印刷・出版費	75,000	71,122	3,878	会報印刷平均 1、7万円 x 4回ほか
会費・会議費	55,000	46,960	8,040	国際協力NGOセンター(JANIC)・日比NGOネット(JPN)・横浜NGO連絡会(YNN)・会費計4.5万他
手数料	10,000	9,232	768	海外送金手数料ほか
消耗品費	55,000	23,144	31,856	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他
備品・什器購入費	5,000	0	5,000	
事務局賃借料	120,000	120,000	0	事務局家賃(1万円 x 12ヶ月)
保険料	15,000	5,780	9,220	労災保険、海外旅行保険
管理費計	2,125,000	1,290,851	834,149	
経常経費計	12,279,000	11,645,671	633,329	

当期正味財産増減額	352,214
前期繰越正味財産額	1,772,030
(うちJOFPA基金)	1,432,989
次期繰越正味財産	2,124,244
(うちJOFPA基金)	1,109,267

註: (JOFPA基金) 平成25年5月末に活動を終了したチホリ国際里親の会(略称JOFPA)の残余財産。
JOFPAの事業の一部を引き継いだことから、当団体が残余財産を受領、看護師志望の学生を対象とする奨学金に充当している。

貸借対照表

平成29年3月31日現在

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産	2,124,244	1 流動負債	0
現金預金	2,124,244	2 固定負債	0
2 固定資産	0	負債合計	0
		III 正味財産の部	
		正味財産	2,124,244
		前期繰越正味財産額	1,772,030
		当期正味財産増加額	352,214
		正味財産合計	2,124,244
資産合計	2,124,244	負債及び正味財産合計	2,124,244

平成29年度 収 支 予 算 書

平成29年4月～平成30年3月 特定非営利活動法人ピラーンの医療と自立を支える会

I 経常収益の部

適用レート: ¥2.3/P(2017年1月27日メロバンク送金レート)

単位:円

科 目	H29年度予算案	摘 要
受取会費(社員会費)	300,000	500円 x 50名 x 12ヶ月
寄附・医療自立支援	650,000	1,000円 x 50口 x 12ヶ月
寄附・教育支援	5,400,000	チホリ2.4万x108口他(260万)、CMP各種奨学金・教育全体(132万)、医大生支援50万、ブラクル32万他
寄附・一般	2,000,000	定期定額支援を除く寄附全般、書き損じ葉書、不用品換金分寄付他
(受取寄附合計)	8,050,000	
受取助成金	2,190,000	今井記念海外協力基金100万、WE21ジャパンみどり19万、環境関係100万円
事業収益	200,000	ハンディクラフト事業収益
雑収入	1,000	
経常収益計	10,741,000	

II 経常費用の部

科 目	H29年度予算案	摘 要
医療・衛生事業費	2,250,000	PIHS:220万円(助産所事業/助成金事業) CMIP:5万円(奨学生医療支援)
人材育成事業費	5,300,000	SCMSI(定期支援96万+カレッジ奨学金24万)へり/276万円、JOFPA奨学金2名 11万へり/25万円 CMIP(奨学金51万給食9万モニター代7万)計67へり/154万円、医大生奨学金21万へり/48万 ブラクル・あしなが15万へり/34万円、各パートナー団体経由クリスマス他特別支援10万円
農村開発事業費	1,100,000	ピラーンの村ポールの収入向上、環境保全のための森林農業
環境保全事業費	500,000	レイクセブ町レムスエル地区(9月終了)20万ペソ(46万)とモニター旅費補助
女性自立事業費	330,000	ナバル処振興事業(織手1.2万、担当者手当2万、ミン・織機2万各へり他)COWHED奨学金他2万へり
広報啓発事業費	80,000	(あーすフェスタ 横浜フェスタ)参加費、ホームページ謝礼6万円
予備事業費	100,000	
事業費 計	9,660,000	
管 人件費	720,000	専従スタッフ7名(1,000円x30hx12月)、非専従スタッフ7名(1,000円x30hx12月)
通 通信費	200,000	会報発送費他郵送料8万、NTT12万
旅 旅費・交通費	60,000	非専従スタッフ交通費、現地モニター交通費他
理 印刷・出版費	70,000	会報印刷 1.7万円 x 4回 ほか
費 会費・会議費	45,000	国際協力NGOセンター(JANIC)、日比NGOネット(JPN)、横浜NGO連絡会(YNN)、各年会費他
手数料	10,000	海外送金手数料ほか
消耗品費	25,000	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他
事務局賃借料	120,000	事務局賃借料 1万円 x 12ヶ月
保険料	15,000	労災保険、海外旅行保険
管理費 計	1,265,000	
経常経費 計	10,925,000	
H29年度正味財産増減額	-184,000	H29年度末見込み
H28年度繰越正味財産額	2,119,096	H28年度末見込み
(うちJOFPA基金)	1,110,000	JOFPA基金:当団体がH25年6月に引き継いだJOFPA残余資産。残額看護学生奨学金に充当
H29年度次期繰越正味財産額	1,935,096	
(うちJOFPA基金)	856,000	JOFPA基金:当団体がH25年6月に引き継いだJOFPA残余資産。残額看護学生奨学金に充当

<ハンディクラフト事業> 平成28年度収支決算書

I 収入の部

科 目	H28年度決算	摘 要
当期収入		
売り上げ	398,743	<参加フェスタ・バザー> あーすフェスタ、グローバルフェスタ、よこはまフェスタ、都築区民まつり、市民活動フェア 日比NGOネットフォーラム、オリブみどりイベント会場 国連ウイメン日本協会よこはまフォーラム など
寄付	20,000	
収入合計	418,743	

II 支出の部

科 目	H28年度決算	摘 要
当期支出		
製品仕入れ代金	145,483	ティナラク織、ビーズ、ナバルタビ織など購入
出展・出店料	9,000	イベント出店料、バザー参加費寄付ほか
輸送運搬費	7,631	イベント会場宅配料金、顧客への商品郵送費
ボランティア交通費	22,980	販売ボランティア交通費他(一律500円/日)
備品消耗品費	2,124	ビーズメガネチェーン備品、値札ほか
縫製謝礼	108,959	縫製ボランティア謝礼(材料費、送料含む)
製品販売経費小計	150,694	
一般会計へ繰り入れ	122,566	
支出合計	418,743	

<ハンディクラフト事業> 平成29年度収支予算書

I 収入の部

科 目	H29年度予算	摘 要
当期収入		
売り上げ	450,000	<参加予定フェスタ・バザー> あーすフェスタ、よこはまフェスタ、市民活動フェア カモンマーケット他 計15イベント
寄付	5,000	
収入合計	455,000	

II 支出の部

科 目	H29年度予算	摘 要
当期支出		
製品仕入れ代金	150,000	ティナラク織、ビーズ、ナバルタビ織など購入
出展・出店料	20,000	イベント出店料、バザー参加費・寄付ほか
輸送運搬費	5,000	イベント会場宅配料金、顧客への商品郵送費
ボランティア交通費	18,000	販売ボランティア交通費他(一律500円/日)
備品消耗品費	2,000	ビーズメガネチェーン備品、値札ほか
縫製謝礼	60,000	縫製ボランティア謝礼(材料費、送料含む)
製品販売経費小計	105,000	
一般会計へ繰り入れ	200,000	
支出合計	455,000	

活動を支えてください

◆ 定期ご寄付（月額）

医療・自立事業支援	1,000 円
教育全般支援または小学生奨学金	500 円
ハイスクール奨学金	1,500 円
カレッジ奨学金	4,000 円

この他、随時のご寄付やカンパも歓迎です。



◆ 社員会員

当法人の社員として会の運営にご参加いただける方は、その旨お申し出ください（定期ご寄付会費に加えて、**月額 500 円の社員会費**をお願いします）。特にお申し出がない場合は、「賛助会員」としてご協力いただき、年 4 回発行の会報等を通じて活動の成果をご報告させていただきます。

◆ 集めています！

書き損じはがき、未使用や使用済みの切手を集めています。書き損じはがきは発送用の切手に、切手は換金して活動に役立っています（恐縮ですが、事務所までの送料のご協力をお願いします）。

◆ ボランティア募集

手工芸品の仕分けや値札付け、会報発送など簡単な作業を月に 1~2 回お手伝いください！
神奈川県内や東京都内のバザーやイベントでの**伝統工芸品販売手伝い**も随時募集しています。

連絡先

■ 本部事務所

〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX : 045-500-9151

E-mail : hands-mindanao@nifty.com

<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>

■ 郵便振替

00210-5-72693

ビラーンの医療と自立を支える会

2017/07/14